令和２年度　大竹市立大竹小学校　学校評価自己評価表（　計画　　中間　（最終））

学校教育目標	目標に向かうストーリー
みんなで伸びる ～夢に向かって，すすんでチャレンジする竹っ子～	・学校教育目標の達成に向け協働しながら「知・徳・体」に取り組んだ。 ・ただ，その成果は十分ではなく，まだ伸びる可能性が十分にある。 ・そこで，今年度は，・・・ 「すすんでチャレンジ」する意識を教師も児童もしっかりともち，目標の達成に向け努力する中で，主体性，思考力，表現力を高めていく。 ・このことは全ての教育活動で行い，生きる力の土台を創っていく。
経営方針 確かな「生きる力」の土台づくり	

学校関係者評価を受けての次への方針・方策		
	上半期	○学校関係者評価委員会では，現在の学校の状況と取組について理解していただいた。会でいただいた示唆と，学校評価自己評価表（中間報告）をもとに，保護者，地域と目的や課題を共有し，「知」「徳」「体」の取組の改善を図りながら，全校で取り組んでいく。また，児童が主体的に取り組めるよう工夫を行いながら「つながり」を意識した取組を進め，生きる力の土台を創っていく。
	下半期	○学校関係者評価委員会では，コロナ禍の中でも学校の取組の成果について評価していただき，来年度に向けた取組等の計画について興味をもっていただいた。また，外国語やＩＣＴ活用についても貴重なご意見をいただいた。評価委員会でいただいた意見を参考にし，来年度も学校目標の具現化に向け，全校で取り組み，生きる力の土台を創っていきたい。

学校教育目標	中期経営目標	年度達成目標	達成するための方法・手段	成果指標（達成を見取る目安）	担当	結果	評価	成果（○）と課題（▲）
みんなで伸びる ～夢に向かって，すすんでチャレンジする竹っ子～	【学びをつなぐ子】 リフレクションを通して，学びを生活とつなぐことができる。	①思考力・判断力・表現力の基盤となる基礎学力が定着している。	算数は毎時間適応題を行う。国語は毎時間漢字テストを行う。児童の課題に応じたドリルタイムやさよなら一問を引き続き全校で確実に実施する。	学期末単元テスト（国語・算数）：正答率６０％未満の児童の割合４％以下	教務・研究	一学期末単元テスト（国語・算数）正答率６０％未満の児童の割合 3.7%。	3	○学期末単元テスト（国語・算数）正答率６０％未満の児童 3.7%。国語のみでは 1.5%，算数のみでは 2.9%。 ○生徒指導部と連携し下校指導の態勢を整えたことで，時間いっぱいさよなら一問を行うことができた。 ○家庭学習頑張り週間では，さよなら一問で宿題の難しい部分の問題を取り入る工夫をしたことで宿題をやろうとする意欲を高めることができた。 ▲思考力・判断力・表現力の基礎を身に付けるために，スピーチや対話も取り入れた取り組みを進めていくことを検討する。
		②リフレクションを通して，学びのつながりを自覚化できる。	リフレクションの視点を明確にして，自・他，もの・こととつながる。	学校評価アンケート（児童・教職員）：「自・他，もの・ことをつなげるリフレクションができる」の肯定的評価９０％以上 学校評価アンケート(児童・保護者・教職員)：「学びを次に生かすための見通しを自らもつことができる」の肯定的評価８０％以上		学校評価アンケート「自・他・もの・ことにつなげるリフレクションができる」の肯定的評価　児童：90%，教職員：91% 学校評価アンケート「学びを次に生かすための見通しを自らもつことができる」の肯定的評価　　児童：88%，保護者：　78.3%，教職員：80%	3	○目標値をほぼ達成することができた。「自・他，もの・ことをつなげるリフレクション」について，低学年から高学年の児童においてリフレクションの質が高まった。また，教員においては取組の積み重ねにより授業改善につながった。 ○単元のスタート時にゴールイメージを共有化することで，児童は毎時間，課題意識をもって学習を進めることができ，児童の主体性が高まった。 ▲保護者の肯定的評価は前回よりも 11%上がったものの，目標値にはわずかに至らなかった。これは，学校での取組の保護者への伝わり方が不十分だったこと，児童が学んだことを生活場面につなげる力が浅かったことなどが反省として挙げられる。保護者に向けての情報発信等を工夫し計画的に行っていくとともに，取組を継続して進めていく。 ▲リフレクションシートの開発・活用が多くの教科で進んだが，定着に向けて今後も取組を進めていく。
	【人とつながる子】 人とのつながりを大切にし，人のために進んで活動できる。	○相手意識をもって活動し，自己有用感が向上している。	6 年生を中心とした委員会活動を活用し，「あいさつ」「返事」「無言掃除」を行う。	学校評価アンケート(児童・保護者・教職員)：「学年に合わせたあいさつや返事ができる」の肯定的評価 90%以上 学校評価アンケート（児童・教職員）：「無言で協力して時間内に掃除をやりきる」の肯定的評価 90%以上	生徒指導	学校評価アンケート「学年に合わせたあいさつができる」の肯定的評価　児童：93% 保護者：80.9%　教職員：88% 学校評価アンケート「無言で協力して時間内に掃除をやりきる」の肯定的評価 児童：96%　教職員：97%	3	○あいさつにおける児童の肯定的評価は，目標値に達成することができた。運営委員会の発案により，あいさつ名人バッチをリニューアルしたことで，あいさつしようという意欲を高めることができた。特に６年生のあいさつ名人が大幅に増え，児童の自主的な活動が結果につながった。 ○掃除に関する評価は，児童，教職員共に目標値に達することができ，無言掃除の取組が年々定着してきていると言える。１年生も，６年リーダーをはじめ，他学年や教職員の姿を見習って，無言掃除が習慣化してきている。 ▲あいさつに関する保護者の評価は，目標値に達しなかった。地域であいさつをする児童が少ないことの表れであるが，個人差があり，８割以上の児童が地域でもあいさつができていることを評価したい。あいさつを通して，人とのつながりを大切にしていく取り組みを継続していく。
	【未来につなぐ子】 未来の自分とのつながりを意識して生活できる。	①楽しんで運動する習慣を身に付けている。	準備運動にサーキットを取り入れ，運動量を確保した体育授業を進める。 児童に目標をもたせ，休憩時間を活用した体力づくりを行う。	・ソフトボール投げの記録，１回目より２回目（再測定）の記録が上回った児童８０％以上 ・学校評価アンケート（児童・保護者・教職員）：「進んで体を動かしている」の肯定的評価７０％以上	保健体育	２回目のソフトボール投げの記録が，１回目の記録を上回った児童の割合 73% 学校評価アンケート「進んで体を動かしている」の肯定的評価　児童：86% 保護者：69.7%　教職員：92%	2	○児童の課題である「ボール投げ」に１年間継続して取り組んだことで，目標を設定して取り組むなど，児童の意識が高まった。 ○体育の学習で学年段階に応じたボール運動を取り入れたことで，あまりボールに慣れていない児童もボールに触れる機会が増えた。 ▲学年ごとに取組内容に差が出てしまった。体育の時間の準備運動にボール投げを取り入れ，全校で同じ内容を取り組んでいく。
		②食べる喜びを感じ，偏食せずに食べきることができる。	栄養教諭と連携した食育を進める。	学校評価アンケート(児童・教職員)：「給食（一人分の基準量）を減らさずに食べきることができる」の肯定的評価 85%以上，（保護者）「好き嫌いせずおいしく食べている」８０％以上		学校評価アンケート 「給食を減らさずに食べることができる」の肯定的評価　児童：90%　教職員：95% 「おいしく食べている」保護者：76.3%		○これまでの継続した食指導により，ほとんどの児童が好き嫌いせず給食を食べきることができている。 ▲食指導で学習したことを，学校だけでなく家庭でも生かそうとする力に課題がある。引き続き，学習したことを家庭で実践できるような場を設定し，「食育だより」等を通じて家庭と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。

達成基準【４：達成した（達成指標を大きく上回った）　３：概ね達成した（達成指標を上回った）　２：もう少しであった（達成指標を少し下回った）　１：達成できなかった（達成指標を大きく下回った）】